

2024年3月1日
JICA インドネシア事務所

JICA 海外協力隊 赴任前留意事項

インドネシア国



目次

1. 赴任時の携行荷物について
2. 別送荷物について
 - (1) アナカン・郵送等の利用について
 - (2) 通関物品ほか留意点
3. 通信状況について
 - (1) パソコンの普及状況
 - (2) 携帯電話の普及状況
 - (3) インターネット環境
4. 現金の持ち込み等について
 - (1) 現金持込にかかる注意
 - (2) 両替状況
 - (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について
5. 治安状況について（JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照）
6. 交通事情について
7. 医療事情について
 - (1) 医療費の支払い
 - (2) 任国の予防接種事情
 - (3) 薬を定期的に服用されている方へ
 - (4) マラリア対策について
8. 蚊帳について
9. 任国での運転について
10. お問い合わせ
11. その他

1. 赴任時の携行荷物について

※隊員ハンドブック 3-5 出発時の注意事項を必ず確認の上、ハンドブックに記載されている「手荷物として持参するもの」に加えて、以下を持参ください。

- ① 当座必要な現金（目次4.参照）
- ② 隊員ハンドブック
- ③ 当座の衣類（表敬訪問時着用フォーマル衣服及び革靴等含む）
- ④ 予防接種記録
- ⑤ 常用薬
- ⑥ 国際協力共済会ハンドブック
- ⑦ 持病のある場合は英語の所見等
- ⑧ インドネシア語学習資料
- ⑨ 活動に必要なもの（職種に関連する用語集・参考書・道具等）

2. 別送荷物について

（1）アナカン・国際宅急便の利用について

赴任時に無料で持参できる手荷物は、基本スーツケース（23kg 以下）2～3 個です。（時節により個数は変動します。）

別送荷物の検討の前に、赴任の際の航空会社にスーツケースの個数追加についての要領（料金、重量含め）を確認し、以下①～③の別送便と比較して、各自必要に応じてご検討ください。

① アナカン（航空別送手荷物 = Unaccompanied Luggage）

航空会社の貨物輸送サービスを利用するもので、旅具扱いの物品は免税による通関が認められています。インドネシアに支店のある日系運輸会社3社を推奨しています。（日本通運、ヤマト、クラウン）

インドネシア着荷から受け取りまでに2～3週間程必要な他、煩雑な手続きが発生しますが、ご自身でお受け取りなる場合の手続きほかを想定して、ご利用ください。

② 国際宅配便（DHL/OCS 等）

国際宅配便は、DHL 社か OCS 社を利用下さい（TNT 社、FEDEX 社、UPS 社等は、500US\$以下の申告価格の荷物については免税対象となりません）。

③ 郵送便（EMS/SAL 便、船便）

郵便による輸送は、お勧めしていません。税金がかかるほか通関手続きのために空港内にある郵便局へ少なくとも2、3回出向く必要があり、引き取るまでに3か月程度を要する事態も発生していますので、検討外としてください。

（2）通関物品ほか留意点

下表の物品は別送を避け、赴任時に手荷物として持ち込むことをお勧めします。

購入時と同じ包装・梱包で未開封の大量送付	商用目的とみなされる可能性が高く、課税対象となり、通関手続きが煩雑になるため。
パソコン 一眼デジタルカメラ	高額な関税と手数料（～200%）が発生する他、紛失、盗難の恐れもあるため。

医薬品全般 / 化粧品 CD/DVD/BD 電子通信機器 (単価 US\$1,500~) 衣類 (単価 US\$250~) 織物 (単価 US\$ 1,500~)	医薬品は没収の対象となります。 また、その他の物品も受け取りに特別許可が必要になる可能性があるため。
---	---

- * 当地で関税がかかる場合及び手続費用(通関料/保管料/手数料)は自己負担となります。
- * 送り状の物品明細欄は正確に記載下さい。(物品名/数量等)
- * 送り状の申告価格は、1 件あたり US\$ 10 以下と低めに設定し、必ず、「PERSONAL EFFECT / NON-COMMERCIAL VALUE」と明記下さい。
- * 送付先住所：任地までの送付を想定している場合ほか、様々なケースが想定されますので、事前に JICA 事務所にご相談ください。

3. 通信状況について

(1) パソコンの普及状況

① 現地で購入可能な PC の機種・価格

海外の主要メーカーの PC が廉価で販売されています。

② プロバイダ

多くの JICA 関係者は、携帯電話会社のインターネットサービスを利用しており、携帯電話兼用 SIM カードを購入し、当国で購入した携帯型の Wi-Fi ルーターや USB 接続型モデムを利用しています。スマホからのテザリングを利用して PC をインターネットに接続する方法も一般的です。

地域にもよりますが、3G/4G/5G のサービスが利用可能です。

電話会社やケーブルテレビ会社が提供する固定回線はありますが、これまでの隊員で利用している人は稀です。

(2) 携帯電話の普及状況

携帯電話の通話用 SIM カードは数社が提供しており、SIM フリーのスマートフォンも、US100 ドル前後の廉価モデルから高級モデルまで、街中の販売店で端末が購入可能です。

※インドネシア国外から持ち込む携帯電話は、SIM フリー機器であっても、端末識別番号 IMEI 登録が必要です。(IMEI 登録しないと SIM を挿入してもインドネシアの SIM カードは認識されません) IMEI 登録の窓口は空港にしかなく、到着後に手続きをします。混雑状況によっては、作業完了までに数時間も要する場合があります。その際、高額な新品機種 of スマホは税金を徴収される場合もあるため、中古品の廉価価格である旨をしっかりと伝えてください。

(3) インターネット環境

全国を網羅する Telkomsel のスマホ向け 4G による速度無制限のインターネットの一例は、10GB が月額 1000 円程度で利用できます。

4. 現金の持ち込み等について

(1) 現金持込にかかる注意

IDR 100,000,000 (1 億インドネシアルピア=約 96 万円 2024 年 3 月レート)
 相当額以上の外貨持込みは申告が必要となります。上記を超えた未申告の現金は、10%の罰金が科せられますので注意下さい。

(2) 両替状況

主要都市では、日本円、米ドル現金ともに両替可能です。但し、地方では、日本円の両替は困難です。T/C(トラベラーズ・チェック)は預金又は両替を受け付ける銀行、両替商が少なく、推奨できません。

外貨紙幣で、折り目がついていたり汚れた札は、銀行で受取を拒否され、両替商では為替が不利になることがあるため、新札でご用意下さい。また、US\$紙幣についてはCBで始まる番号のものは受付不可です。これに加え、US\$20や\$50以下の小額紙幣は、別途手数料が発生し換金レートが悪くなる場合もあるため、両替用はUS\$100以上の紙幣のご準備をおすすめします。

国際キャッシュカードでの引き出しが可能なATMもありますので、ご自身のカード詳細を事前に調べておき、ご利用ください。。

(3) 赴任時に用意することが望ましい金額について

口座開設時に、米ドル口座でUS\$250以上の現金、IDR(インドネシア・ルピア)口座でIDR200,000以上の最低預入金が必要な他、ATMカード作成手数料でIDR22,000が必要です(1IDR≒0.0096円 2023年12月レート)。

※新札の米ドル\$250以上については日本にいる間に準備し、赴任時に持参をお願いします

(ジャカルタでは日本円から米ドルに直接両替することはできず、一度インドネシア・ルピアに両替してから米ドルに再両替となるため、2回分の両替手数料がかかります。また、銀行口座開設には米ドル新札が必要ですが、両替商からは状態の悪いドル紙幣が渡される可能性がありますので、米ドルの準備をおすすめします)

赴任後、任地の住居に入居する際、一か月分の家賃相当額をデポジット(日本の敷金に相当し、補修修繕がなければ清掃費を差し引かれて返金されるもの)として支払わなければいけない場合もあることから、現金の準備をお願いします。

※初回の現地生活費(約2~3か月相当分)は、赴任2日目の口座開設の約10日後を目途に支給されますので、上記に加え、当座の生活費分を持参下さい。

5. 治安状況について (JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照)

インドネシアの治安情勢を踏まえ、一部地域への渡航を禁止しています(詳細は、着任後別途配布する安全対策措置を参照)。その上で、下記に留意願います。

- (1) 緊急事態の発生に備え、常に所在を明らかにし、事務所貸与の携帯電話を常時携帯する。(緊急連絡用の携帯端末とTelkomsel社の通話用SIMカードを貸与の上、通話料の一部を補助しています。)
- (2) 夜間の不要不急の外出を見合わせる。(特に宗教上の祝日)
- (3) 不審物を発見した場合は触れることなく、速やかに現場を立ち去り、警察官、ビル管理者等に報告する。
- (4) 欧米系の関連施設、欧米人が出入りするホテル、レストラン、教会等の人の大勢集まる場所への立寄り避ける。
- (5) 一般犯罪も増加傾向のため、一般道でのすり、引ったくり等に十分注意する。

6. 交通事情について

乗り合いバスやタクシー等の日常の交通手段は比較的、発達しており、航空便

の国内線網も充実しています。ジャワ島とスマトラ島では、電車もありますが、本数は少ないです。バイクタクシーもありますが、安全性の観点からバイクの後部座席への乗車及び運転は厳禁です。

7. 医療事情について

(1) 医療費の支払い

医療費については、共済会保険のキャッシュレス受診システムを使える対応医療機関を受診することができます。

大都市以外のキャッシュレス対応できない医療機関での受診は、まずご自身で立替払いをお願いし、後日、国際協力共済会に対し医療費申請をして、支給条件に基づいて還付を受けることが出来ます。(支給対象とならない費用もありますので、詳細は共済会ハンドブックをご確認ください)。

医療費は高額になる場合もありますので、急な傷病発生に備え、常時2万円程度の現地通貨と後払いが可能なクレジットカード等をお手元にご用意されることを推奨しますので、日本のクレジットカードをお持ちの方は持参してください。

(2) 任国の予防接種事情

当国では、JICA が推奨する国別の各種予防接種は可能です。ただし、当地で接種する場合、ワクチンの在庫がなくなることも想定されますので、渡航前の接種を推奨しています。

派遣前訓練の終了からインドネシアへの赴任までの数か月間を利用して、日本脳炎・B型肝炎・腸チフス等の予防接種対象の方は、本邦出発前にできるだけ接種を済ませて赴任していただくようお願いいたします。費用補填については協力隊事務局に事前にお問い合わせの上、何を接種摂取する必要があるのか等、自己管理と計画的な接種により「自分の健康は自分で守る」という意識で赴任に備えてください。

(3) 薬を定期的に服用されている方へ

定期的に薬を服用されている方は、事前に服用薬がインドネシアで入手可能かご自身でご確認下さい。一般的に入手が困難な場合が多いと想定されますので、出発前に日本の主治医の指示を仰ぎ、必要に応じて事前に英文の紹介状(処方箋等)等をご持参の上、投薬にかかる自己管理ができるように備えてください。

(4) マラリア対策について

皆さんの赴任先ではマラリアの流行は発生していませんが、マラリア予防薬が必要な場合には事務所に相談の上、適切な対処に基づいて指示されますので、ご相談ください。

8. 蚊帳について

当国の一部はマラリア・デング熱の発生地域となっているため、対策の一つとして就寝時等に蚊帳を利用されることを推奨いたします。当国で蚊帳の購入可能です。

9. 任国での運転について

当国では自動車、バイクの運転は厳禁です。

お問い合わせ

任国での活動に関する質問は、以下の JICA インドネシア事務所代表アドレス宛にメールでお問い合わせください（メール内に、協力隊事業担当者宛（To JOCV program in charge）、と明記ください）。

※長期隊員の方のお問い合わせは、派遣前訓練が開始されてから行ってください。

※活動に関わる内容以外の質問はお控えください。

JICA インドネシア事務所代表アドレス : in_oso_rep@jica. go. jp

10. その他

入国時/入国後

- 現在、インドネシア国内におけるマスク着用の義務はありませんが、体調が悪い場合や感染のリスクがある方には、マスク着用が推奨されています。
- 通関検査で、荷物の開閉ができるようスーツケースの鍵を準備下さい。ダンボール箱は税関で内容検査・課税をされる可能性があります。
- ジャカルタから任地へ赴任する際の国内線について、無料預入荷物許容量は 20 キロです。超過分は自己負担となります。
- 現地通貨ルピアへの両替は空港内の両替所その他、事務所入居ビル内の銀行、又は近くの両替商を利用することも可能ですが、到着日の夕食に必要な額は、空港到着時に両替してください。
- 円から米ドルへの直接両替はできないため、米ドルを日本から持参してください。
- 空港内では自分の荷物の管理には十分ご注意ください。勝手に荷物搬送を手伝い、チップを要求する人もいますが、必要ない場合は荷物を運ばれないように断ってください。
- 空港での諸作業を終えた後、JICA が手配した車によって、宿泊ホテルへ移動します。ホテルのレセプションから事務所貸与の携帯電話及び資料を受け取ってください。
- 到着日翌日、上記 5-（1）にある事務所貸与の携帯電話を利用できるようにするため、電話会社にて SIM カードを購入します。緊急連絡用の通信費は JICA が負担します。
- 昼夜を問わず、ジャカルタ市内の治安は決して良くありません。宿泊施設がある地域を含みジャカルタ市内では常にひたたくり被害が報告されているほか、赴任到着日を含み、不必要な夜間の外出や単独行動は避けるよう、心がけてください。

以上